

統計調査ニュース

平成29年（2017）11月

No.372



官庁データサイエンティストの育成を目指して

総務省統計研究研修所長 會田 雅人

統計研究研修所は、総務省の機関として、国家公務員及び地方公務員の統計能力の向上と統計家の育成のための専門研修を実施しています。また、各府省支援のための統計作成技術の研究にも力を入れて行くこととしています。

【データサイエンスの重要性】

データサイエンスと統計はほぼ同義語だと思います。アカデミーの世界では、本年4月に滋賀大学にデータサイエンス学部が新設され、来年には横浜市立大学でもデータサイエンス学部が設置される予定です。ビジネスの世界においても、品質管理手法である「シックス・シグマ」におけるDMAICプロセスでもデータ分析は重要視されていますし、マーケティングを始めとした近年のビッグデータの活用においてもデータ分析が重要です。

【統計改革推進での提言】

「統計改革の基本方針」（平成28年12月21日経済財政諮問会議決定）において、「統計研修所における「官庁データサイエンティスト」など高度な統計専門人材の育成を推進・・・」とされています。また、「統計改革推進会議最終取りまとめ」（平成29年5月19日統計改革推進会議決定）においても、「国・地方の職員一般のデータ・リテラシーの確保と、その段階的な技術向上を図るため、受講しやすく効果的な形式の研修を開発するなど統計研修の充実・強化等を実施」とされています。

【統計研究研修所の取組】

こうした中、統計研究研修所では、従来からの教室形式の研修に加え、多くの方々が受講できる方策として、2016年9月にオンライ

ン講座「初めて学ぶ統計」を立ち上げ、2017年7月に第2弾となる「統計データのできるまでー統計的推測の基礎ー」を開始しました。また、コースとしても、従来からの「データサイエンスセミナー」、「統計オープンデータ利活用ーAPI機能の活用事例の演習ー」などに加え、2017年度には、「ビッグデータ入門」、「マイクロデータ分析の基礎」などを加え新しい取組を行ってきています。今後は、官庁データサイエンティスト育成を目標に、データサイエンスの講座の充実、EBPMの考え方も取り入れた「政策と統計」に関するオンライン講座の新設などを計画しています。統計研究研修所への御支援、研修コースへの御参加をよろしくお願いいたします。

目次

官庁データサイエンティストの育成を目指して.....	1	統計研修生募集の案内	
平成28年社会生活基本調査 生活時間に関する結果の概要	2	ー平成29年度第4四半期(平成30年1~3月)ー	8
I「2017年度 統計関連学会連合大会」に参加して		11月28日開講！「社会人のためのデータサイエンス演習」	9
／II「経済統計学会 第61回全国研究大会」に参加して	4	統計データ・グラフフェアの開催について.....	10
「平成29年秋の叙勲」	5	中核市発とうけい通信㊟	11
第65回統計グラフ全国コンクール入選作品決定.....	6		

平成28年社会生活基本調査 生活時間に関する結果の概要

平成28年10月に実施した社会生活基本調査の生活時間に関する結果を本年9月15日に公表しましたので、その概要を紹介します。

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査しており、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施しています。

平成28年調査は全国の10歳以上の約20万人を対象に、平成28年10月20日現在で実施しました。

今回公表した結果は、生活時間の配分に関する結果です。

なお、詳細な行動分類による生活時間の結果は、平成29年12月に公表する予定です。

夫と妻の生活時間

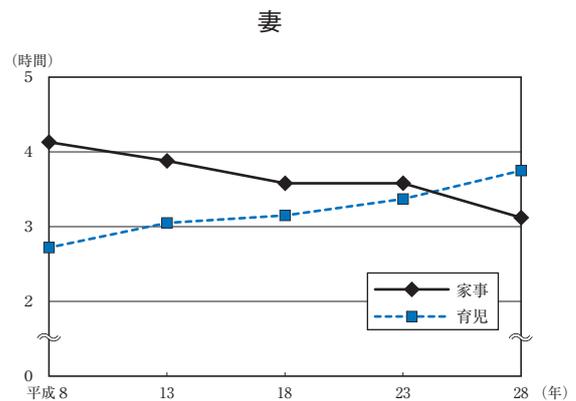
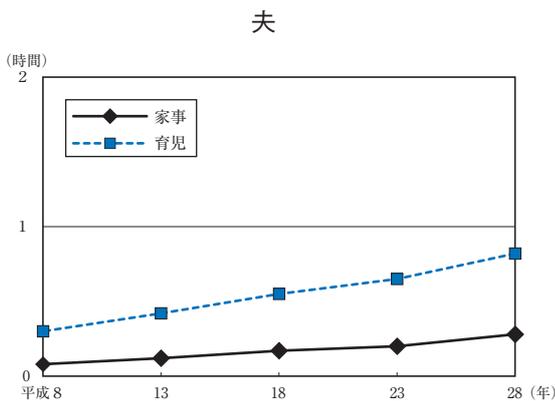
子供がいる世帯のうち、6歳未満の子供がいる世帯について、過去20年間の夫と妻の家事関連時間の内訳の推移をみると、平成8年に比べ、夫の家事時間は17分で12分増加、育児時間は49分で31分増加しています。一方、妻の家事時間は3時間7分で1時間1分の減少、育児時間は3時間45分で1時間2分の増加となっています。(表、図1)

表 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事関連時間の推移 (平成8年～28年)
一週全体、夫婦と子供の世帯

(時間.分)

	夫					妻				
	平成8年	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	平成8年	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年
家事関連	0.38	0.48	1.00	1.07	1.23	7.38	7.41	7.27	7.41	7.34
家事	0.05	0.07	0.10	0.12	0.17	4.08	3.53	3.35	3.35	3.07
介護・看護	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.03	0.03	0.03	0.03	0.06
育児	0.18	0.25	0.33	0.39	0.49	2.43	3.03	3.09	3.22	3.45
買い物	0.14	0.15	0.16	0.16	0.16	0.44	0.42	0.40	0.41	0.36

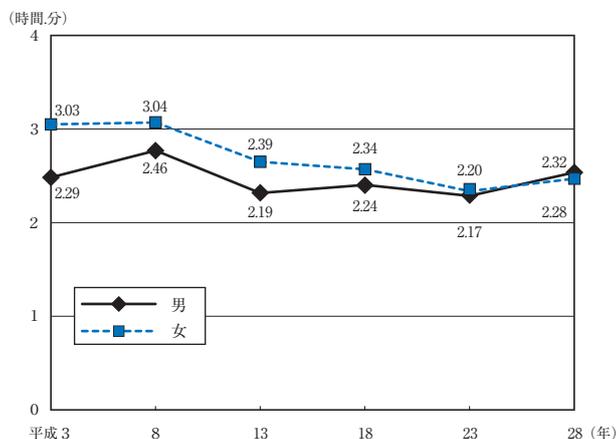
図1 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事時間、育児時間の推移 (平成8年～28年)
一週全体、夫婦と子供の世帯



介護・看護時間

介護者（15歳以上でふだん家族を介護している人）のうち、調査当日に実際に介護・看護を行った人の平均時間（行動者平均時間）は、介護・看護時間の把握を開始した平成3年以降、男性はおおむね横ばい、女性はおおむね減少傾向で推移しており、平成28年は男性が2時間32分、女性が2時間28分と、初めて男性が女性の行動者平均時間を上回りました。（図2）

図2 介護者の介護・看護の行動者平均時間の推移（平成3年～28年）一週全体、15歳以上



スマートフォン・パソコンなどの使用状況

スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合（使用割合）は、男性が61.9%，女性が58.4%となっています。男女、年齢階級別にみると、男女共に20～24歳の使用割合が最も高くなっており、15～59歳の年齢階級では、女性の方が使用割合が高くなっていますが、60歳以上では男性の方が使用割合が高くなっています。（図3）

また、スマートフォン・パソコンなどの使用時間が12時間以上の人は153万2千人で、使用した人のうち2.3%となっています。20～24歳では使用時間12時間以上が使用した人のうち男性が6.8%，女性が7.4%と割合が高くなっています。（図4）

図3 男女、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどの使用割合（平成28年）一週全体

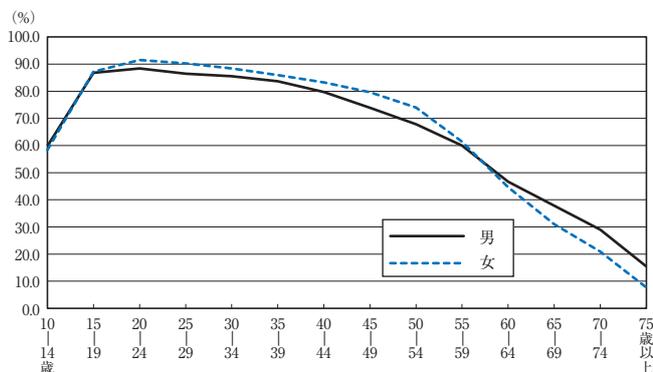
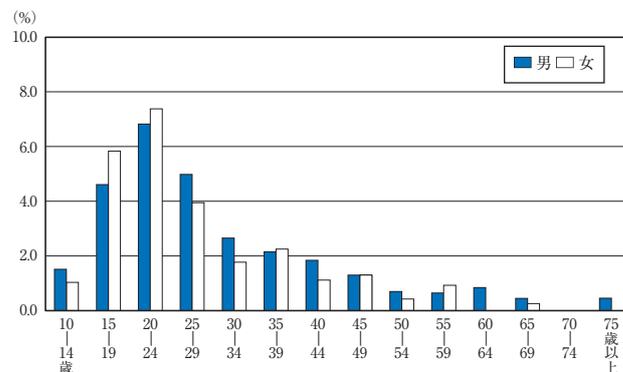


図4 スマートフォン・パソコンなどを12時間以上使用した人の割合（平成28年）一週全体



◆「平成28年社会生活基本調査」の詳しい結果については、次のURLを御参照ください。

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/index.htm>

統計局、政策統括官（統計基準担当）、統計研究研修所及び独立行政法人統計センターは、統計技術の研究その他統計の改善発達に資することなどを目的として、統計関連の学会に団体会員として加盟し、大会での発表を中心に積極的に参加しています。

平成29年9月に統計関連学会連合大会及び経済統計学会が開催されましたので、その概要を紹介します。

I 「2017年度 統計関連学会連合大会」に参加して

平成29年9月3日（日）から9月6日（水）にかけて、南山大学名古屋キャンパスにおいて、2017年度統計関連学会連合大会が開催されました。

本大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の6学会主催、南山大学の共催により開催されました。

今年度は、以下のテーマについて発表講演を行いました。（敬称略）

9月4日（月）13:00～15:00 ミクロデータ解析

- 研修教材としての擬似データの作成と利用
馬場 康維、岡本 基（統計数理研究所・統計研究研修所）、
野呂 竜夫、加藤 真二（統計研究研修所）

9月4日（月）15:30～17:30 統計教育

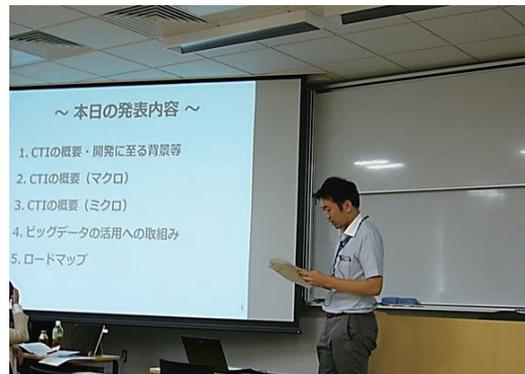
- 一般用マイクロデータ詳細品目版の作成手法～平成21年全国消費実態調査に基づく擬似データ～
伊原 一（独）統計センター）、
平澤 鋼一郎（調査企画課）

9月6日（水）10:00～12:00 公的・民間統計2

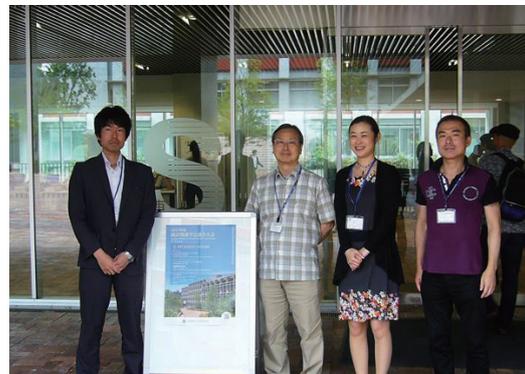
- ホワイトカラー労働者における勤務間インターバルの分析について
石井 竜太、長尾 伸一、永井 恵子（労働力人口統計室）
- 決定木とChow検定によるリコーディング境界値の分析
阿部 穂日（独）統計センター）ほか

9月6日（水）13:00～15:00 公的・民間統計3

- 消費動向指数（CTI）について
杉田 貴司（消費統計課）、
高部 勲（統計研究研修所）
- 欠測補完のためのドメイン設定とk-近傍法について
坂下 佳一郎（独）統計センター）



大会発表の様子



集合写真（南山大学にて）

II 「経済統計学会 第61回全国研究大会」に参加して

平成29年9月10日（日）から9月13日（水）にかけて、法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎において開催された経済統計学会第61回全国研究大会では、以下のテーマについて発表講演を行いました。（敬称略）

9月12日（火）9:00～12:00 公的統計マイクロデータの活用推進に向けて

- コーディネーター・座長：宮内 亨（独）統計センター）
- 調査票情報のオンサイト利用への取り組み
田中 久睦（独）統計センター）
- 調査票情報のオンサイト利用における分析結果の持ち出し基準について

南 和宏（統計数理研究所・（独）統計センター）、
菊池 亮（NTTセキュアプラットフォーム研究所・（独）統計センター）

- 一般用マイクロデータ詳細品目版の概要 —平成21年全国消費実態調査に基づく擬似データ—
北林 三就、伊原 一（独）統計センター）、
平澤 鋼一郎（調査企画課）
- 統計教育・演算用のマイクロデータへの取り組みとその活用事例
宮内 亨（独）統計センター）

9月12日(火)9:30～12:00 日本の統計史を考える

コーディネータ：小林 良行 (統計研究研修所)

- 柳澤統計研究所—その成立と変遷—
小林 良行 (統計研究研修所)

9月12日(火)13:00～15:00 政府統計マイクロデータの作成技法に関する諸問題

- IPF法を用いた教育用データの作成方法
小林 良行 (統計研究研修所)
- 多項ロジットモデル及び主成分分析を用いた新たな統計的マッチング手法の提案
高部 勲 (統計研究研修所) ほか
- 諸外国の公的統計における欠測値補完の現状について
坂下 信之 (統計研究研修所)

9月12日(火)15:10～17:40 政府統計マイクロデータを用いた計量分析の新展開

- 経済センサスを活用した産業別の雇用創出・喪失の分析—ビジネスデモグラフィ統計の整備に向けて
高橋 雅夫 (統計作成支援課)



大会発表の様子



集合写真 (法政大学にて)

「平成29年秋の叙勲」

政府は、11月3日の文化の日に、「秋の叙勲」の受章者を発令しました。

総務省では、11月15日に東京プリンスホテルにおいて伝達式を行い、総務大臣から受章者に勲章が伝達されました。また、受章者は伝達式後、皇居において天皇陛下に拝謁しました。

総務省における統計関係では、永年にわたり国勢調査を始め各種統計調査に調査員として従事し、調査実施に多大な貢献をした次の方々が、勲章の栄誉に浴されました。栄えある叙勲にお祝い申し上げます。

【勲章受章者】 ※敬称略

○瑞宝単光章

牧 清 (北海道)	佐藤 美津子 (埼玉県)	大原 静穂 (愛知県)
寺澤 勝 (北海道)	南部 賢 (千葉県)	加藤 美智恵 (愛知県)
松井 啓市 (北海道)	江澤 貞雄 (千葉県)	大西 佳子 (滋賀県)
羽賀 晶子 (青森県)	田中 正男 (千葉県)	赤塚 君子 (京都府)
佐々木 勝利 (岩手県)	小菅 エツ子 (東京都)	泉 洋 (大阪府)
瀧澤 一 (岩手県)	三ヶ尻 美代子 (東京都)	江藤 智恵子 (大阪府)
佐々木 正昭 (宮城県)	白戸 幸一 (神奈川県)	田中 幸子 (大阪府)
柴田 靖雄 (秋田県)	薄井 英子 (神奈川県)	飯山 嘉子 (兵庫県)
渡部 甚作 (山形県)	菅野 多津子 (神奈川県)	大西 多恵子 (兵庫県)
岡部 銀子 (山形県)	三好 満子 (神奈川県)	仁井 典子 (島根県)
本名 昭司 (福島県)	太田 弘子 (新潟県)	竹本 毅 (岡山県)
菊地 和友 (福島県)	山本 弘子 (富山県)	播野 紀子 (岡山県)
鈴木 昌孝 (福島県)	畑上 登美子 (石川県)	田川 榮子 (広島県)
藤田 文男 (茨城県)	中村 稔 (福井県)	四方 通子 (香川県)
江尻 智子 (茨城県)	西澤 盛和 (長野県)	丸山 陽子 (愛媛県)
金子 弘 (茨城県)	酒井 孝子 (岐阜県)	一町 幸枝 (福岡県)
加藤 了子 (栃木県)	曾我 久子 (静岡県)	田中 由紀子 (佐賀県)
小山 陽子 (埼玉県)	榊原 みさ子 (愛知県)	鬼塚 正史 (長崎県)